

2014年3月期 第2四半期決算報告 個人投資家の皆さまへ

一生のパートナー

第一生命

第一生命保険株式会社

証券コード: 8750

2014年3月期 第2四半期決算のポイント

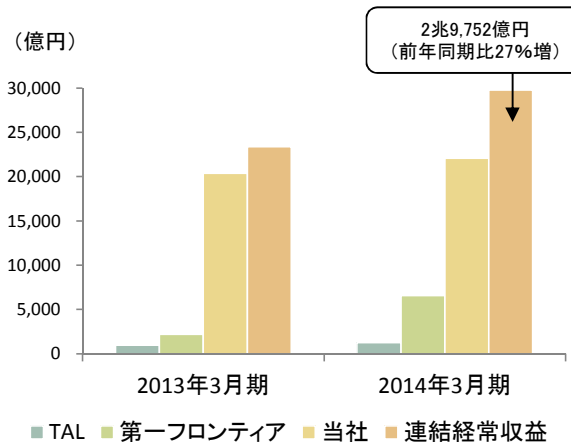
- 保険料等収入や資産運用収益など、経常収益は前年同期比で高い伸びを達成しました。これは、医療・貯蓄・海外など成長分野の保険販売の好調が続いたことや、良好な金融環境が続いたことが主な要因です。
- 経常利益・純利益も高い伸びを達成しました。外国為替の円安基調が続いたことや株式市場が堅調に推移したことで、当社単体の逆ざや・有価証券の売買損益等が改善し、連結業績を牽引しました。
- 第2四半期累計の営業業績や資産運用収支が期初の当社予想を上回ったことから、連結の通期業績予想を上方修正しました。

(1) 経常収益

連結経常収益は2兆9,752億円(前年同期比27%増)となりました。

第一フロンティア生命(以下、「第一フロンティア」)の保険料等収入が前年同期比約3,900億円増加したことが大きく寄与したほか、豪州TAL社(以下、「TAL」)をはじめとする海外子会社の保険料等収入も増加基調が続いています。

経常収益 第2四半期実績

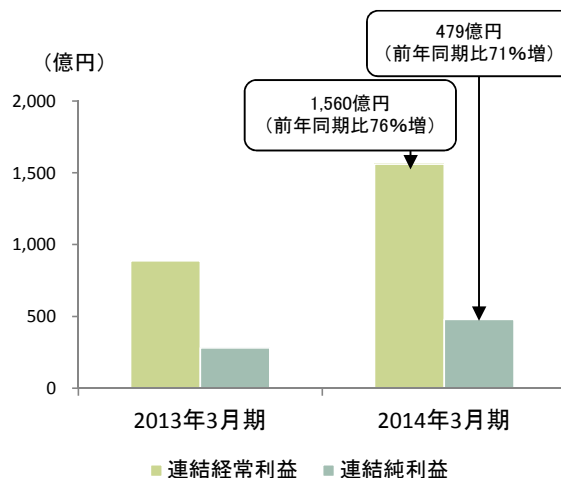


(2) 経常利益・純利益

連結経常利益は1,560億円(前年同期比76%増)、連結純利益は479億円(同71%増)となりました。

外国為替の円安基調が続いたことや株式市場が堅調に推移したことで、当社単体の逆ざや・有価証券の売買損益等が改善し、連結業績を牽引しました。

経常利益・純利益 第2四半期実績

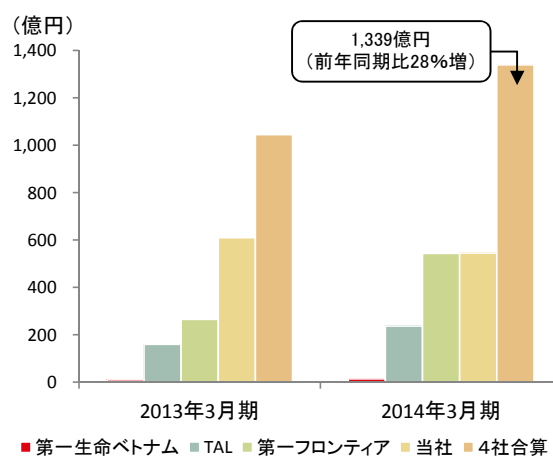


(3) 新契約の状況

新契約を1年あたりの保険料に換算した新契約年換算保険料は、当社(個人保険・個人年金保険の合計)、第一フロンティア、TAL、第一生命ベトナムの4社合算で、1,339億円となりました。

当社単体では前年同期比で減少となりましたが、第一フロンティアやTALの新契約が大きく増加し、4社合算では前年同期比28%の増加となりました。

新契約年換算保険料 第2四半期実績



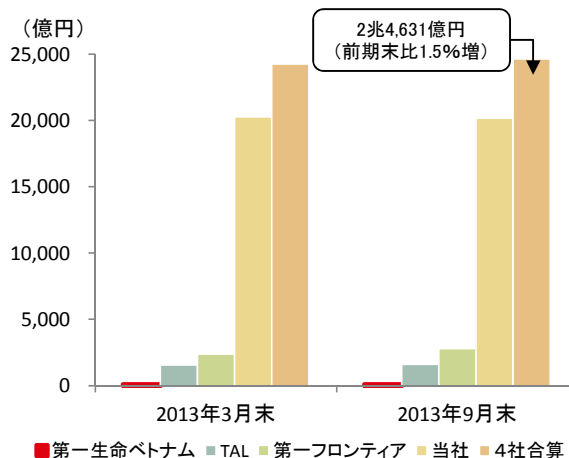
(4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した保有契約年換算保険料は、当社(個人保険・個人年金保険の合計)、第一フロンティア、TAL、第一生命ベトナムの4社合算で、2兆4,631億円となりました。

当社の保有契約は前期末比ほぼ横ばいで推移しました。第一フロンティア(同17.0%増)、TAL(同11.5%増・現地通貨建て)と、成長分野は高い成長を見せており、第一生命グループ全体では同1.5%増と、プラス成長を維持しています。

内外の成長分野がバランスよく貢献し、保有契約の成長を支えています。

保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

当社の一般勘定資産の含み損益(2013年9月末)は、2兆6,387億円となりました。国内株式は、市場が堅調に推移したため含み益が増加しましたが、国内外の金利が上昇したことにより、国内債券および外国証券の含み益は減少し、全体では前年度末比で約1,951億円の減少となりました。

含み損益(当社、一般勘定)

	2013年 3月末	2013年 9月末	増減 (億円)
有価証券	28,144	26,152	△1,992
うち国内債券	16,275	12,394	△3,880
うち国内株式	6,433	9,074	+2,641
うち外国証券	5,050	4,298	△751
不動産	214	277	+62
その他共計	28,339	26,387	△1,951

(6) ソルベンシー・マージン比率(注)

ソルベンシー・マージン比率(2013年9月末)は、708.5%と引き続き高い水準を維持しています。

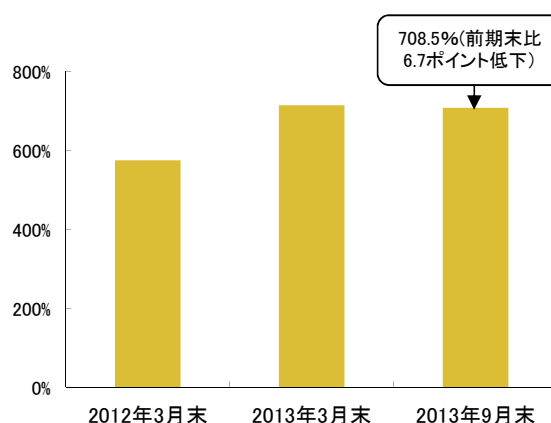
(注)ソルベンシー・マージン比率とは？

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(7) エンベディッド・バリュー(EV)(注)

当社グループのEVは、前期末に比べ4,349億円増加し、3兆7,769億円となりました。

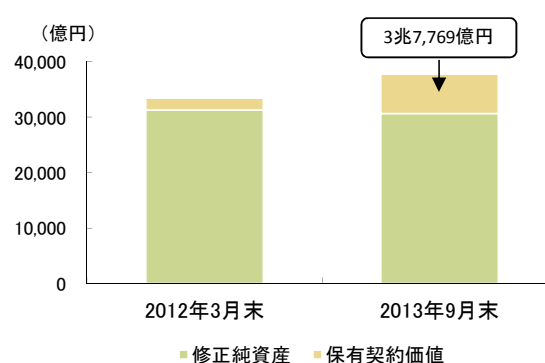
主な要因は、高い成長を遂げた新契約の獲得に加え、金利上昇により保有契約価値が4,972億円増加したためです。なお、国内外の金利上昇により債券の含み益が減少し、修正純資産は622億円減少しました。

(注)エンベディッド・バリュー(EV)とは？

当社グループは市場における当社の企業価値を測る指標として、EVを開示し、その向上に努めています。

現行の生命保険会社の法定会計では、新契約獲得から会計上の利益の実現までに時間がかかります。通常は契約の初期に販売手数料等の費用の大部分が発生する一方で、生命保険の契約は20年、30年と非常に長期にわたるため、時間の経過にもなって収益が発生し、長期間で収益を上げる仕組みとなっています。EVでは、この将来にわたる利益貢献を現時点に割り戻して認識するため、法定会計による財務情報を補強することができると考えられています。

エンベディッド・バリュー(EV)

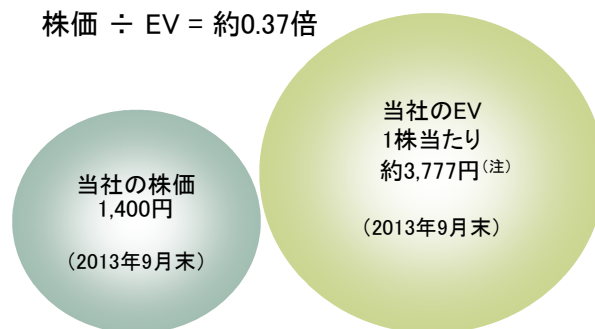


(8) 株価EV倍率

株価をEVで割って求めた株価EV倍率(2013年9月末)は、約0.37倍となりました。

株価EV倍率(2013年9月末)

株価 ÷ EV = 約0.37倍



(注) 当社の1株当たりEVは、当社グループのEV3兆7,769億円(2013年9月末)を、当社の発行済株式数約10億株で除して算出したものです。

(9) 業績予想

当第2四半期決算は、当社の期初予想に対して営業業績や資産運用収支が良好に推移したため、連結の通期業績予想を上方修正しました。下半期の事業環境については、国内における市況改善が続く一方で、米国における債務上限問題や金融緩和策の動向、更には新興国経済の動向など、不透明な部分もありますが、足元までの業績動向なども踏まえながら、通期予想を上方修正しました。

連結業績予想

			(億円)
	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (予想)	増減
経常収益	52,839	55,890	+3,050
経常利益	1,572	2,490	+917
当期純利益	324	570	+245
			(円)
1株当たり (※1,2)			
当期純利益	33	57	---
1株当たり (※2)			
期末配当金	16	20	---

(※1) 1株当たり当期純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。
 (※2) 2013年3月期の実績における、1株当たり当期純利益ならびに1株当たり期末配当金については、2013年10月1日を効力発生日として実施した、普通株式1株を100株に分割する株式分割が2012年度の期首に行われたと仮定して算出しております。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。